

JAこうか露地野菜部会（滋賀県甲賀市、湖南市）

構成員：JAこうか露地野菜部会、JAこうか、滋賀県甲賀農業普及指導センター

背景・課題

滋賀県南西部に位置する甲賀地域では、水田野菜として「キャベツ」、「タマネギ」、「白ねぎ」等が推進され、水稻を基準に、水田作1年、畑作1～2年で輪作されているが、土づくり期間が不足し、土壌の硬化、湿害、肥保水力の低下等に一因した生育不良と低収量が問題となっている。

そこで、現行の作付け体系で導入可能な土づくりの改善として「緑肥作物の活用」、緑肥肥効を向上させるための「バイオスティミラント（BS）資材の活用」、さらに、土壌改善により導入が可能となる「乗用型管理機の活用」について検討した。

みどり戦略実現に向けて

農研機構が作成した「緑肥マニュアル」等を参考に、**当地の作型で導入可能な緑肥作物の検索**する。さらに、緑肥及び緑肥の肥効を向上させるためのBS資材（腐熟促進資材）の効果を、**すき込み後の土壌物理性、化学性の変化および跡作の生育・収量から検証**。

併せて、土壌硬度の改善等により効率的な運用が可能となる「乗用型管理機」による白ねぎ等の土寄せ・施肥作業の省力化効果についても検証。



フレールモアによる緑肥の細断

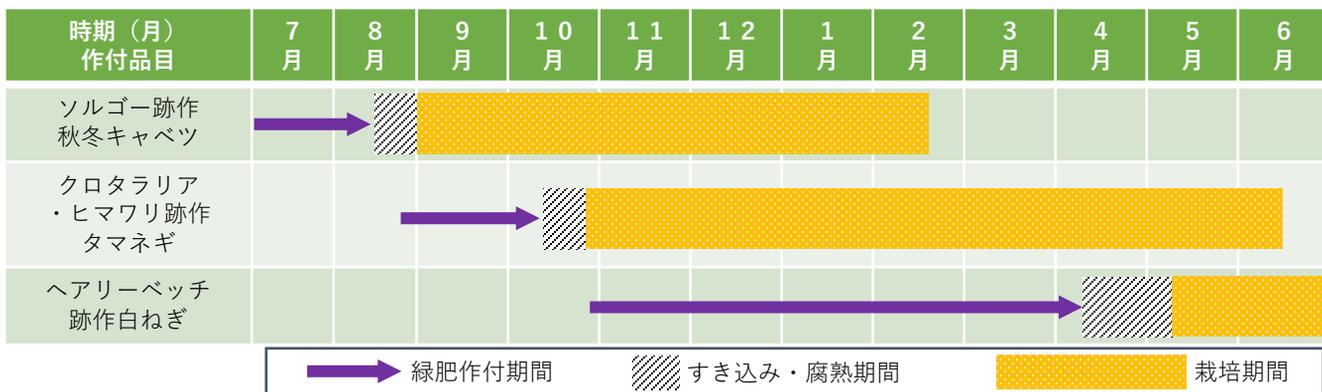
環境負荷軽減の取組

○化学肥料の使用量低減（緑肥のすき込みによる化学肥料の代替）

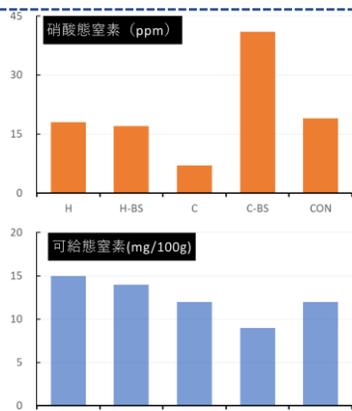
検討するグリーンな栽培体系

①化学肥料の使用量低減：緑肥作物の活用

②省力化：乗用型管理機の活用



すき込み直前のクロタラリア（上）
緑肥すき込み14日後の土壌窒素量の変化（右）



H：ヒマワリ C：クロタラリア CON：対照区
クロタラリアはBS資材により早期に硝化。ひまわりは有機物が多く、可給態窒素の上昇につながった。



乗用型管理機による省力化
（土寄せ・施肥同時作業）